



山梨縣護國神社



鎮座地 〒400-0013 甲府市岩窪町608
電話055-252-6371 FAX055-254-4887

崇敬会入会 のお願い

山梨縣護國神社は、大東亜戦争終結の時点までは、県、県民挙げて手厚く護られてきましたが、連合軍の占領政策により、県との関係を一切断たれてしまいました。そんな中で僅かにご祭神と縁の深いご遺族、戦友および心ある崇敬者により祭祀と経営が支えられてきました。終戦から半世紀を経た今日でも、国の為同胞の為に尊いご身命を捧げられた英霊に対する感謝の心は日本人として決して忘れてはなりません。神社では平和の礎となられた山梨県の戦死者の慰霊と顕彰の祭典を永久に斎行して参ります。神社の末永きご安泰を計するため、崇敬者の入会を切にお願い申し上げます。

特 典

- ◎会員証発行
- ◎護國神社神札授与(毎年末)
- ◎大祭、みたま祭案内、社報(年2回)
- ◎大祓祭案内
- ◎護國會館利用割引

【主なる活動】

- ◆奉賛積み立て事業
- ◆新睦、研修旅行
- ◆青少年の健全育成
- ◆敬神思想の普及
- ◆祭典行事の奉賛

●お申し込みについて●

申し込み書は社務所に用意してございますので、遠慮なくお申しで下さい。又、お電話(055-252-6371)いただければ、直ちにお送りさせていただきます。

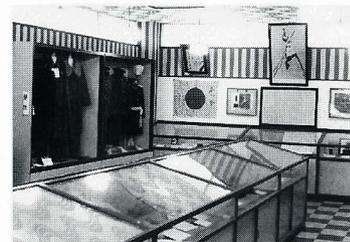
◆崇敬会年会費のご案内◆

特別会員	五万円御奉納のお方又は会社団体
賛助会員	三万円御奉納のお方又は会社団体
維持会員	二万円御奉納のお方又は会社団体
正会員	三千元御奉納のお方
青年会員	志所円御奉納の四十歳までのお方

史実資料館

史実資料館には、西欧列国のアジア植民地支配から大東亜戦争までの経緯、ご遺族から奉納されたご祭神の遺書、遺品。戦後の遺骨収集の写真、甲府の歩兵第四十九連隊旗等が常時展示されております。英霊の真心と、正しい歴史を後世へ伝えてゆくための場として、多くの拝観をお待ち致しております。

(午前10時から午後3時まで社務所までお申し出下さい。)
ご案内申し上げます。



神殿及び敷地

◆神殿及び境内施設

区 分	坪数(坪)	平方メートル数	棟数
本 殿	7・00	23・14	1棟
祝 詞 舎	9・93	32・83	1棟
拝 殿	19・06	63・01	1棟
左 右 渡 廊	8・17	27・01	2棟
兩 翼 舎	22・53	74・48	2棟
齋 館	72・70	240・33	1棟
社 務 所	83・05	274・55	1棟

山梨宮 1棟、舞 殿 1棟、資料館 1棟、手水舎 1棟、
納骨堂 1棟、鳥 居 3基、慰霊碑 14基。
社 殿 流造銅板葺 66・69坪(220・46㎡)
境 内 6,774・39坪(22,394・64㎡)

諸祈願祭

祈願祭

- 初宮詣 ○七五三詣 ○交通安全 ○厄除祓
- 家内安全 ○安産祈願 ○神前結婚式
- 地鎮祭・上棟祭等出張祭

右随時御奉仕致します。護國神社社務所まで御申出下さい。

年中行事



冬 初詣



春 春季例大祭



夏



秋 秋季例大祭

1月 1日	歳旦祭	10月 4日	秋季例大祭宵宮
2月 11日	紀元祭	10月 5日	秋季例大祭
2月 17日	祈年祭	11月 15日	七五三祭
4月 4日	春季例大祭宵宮	11月 29日	鎮座記念祭
4月 5日	春季例大祭	12月 31日	年越の大祓式
6月 30日	夏越の大祓式	毎月 1日	月首祭
8月 13日	} みたま祭 (灯籠まつり)	毎月 15日	月次祭
14日			
15日			

祭事暦

山梨縣護國神社由緒

明治12年12月、招魂社として甲府市太田町公園隣接地に建立され、西南の役以来国難に一死報国の誠を捧げた山梨県出身並縁故ある戦歿軍人軍属等を奉斎し、爾来、大東亜戦争に至るまでの殉国の御霊を逐次合祀してあります。

- 明治12年12月……………招魂社建立(甲府市太田町)
- 明治41年……………招魂堂再建(甲府市太田町)
- 昭和14年……………山梨縣護國神社創設会設立
- 昭和17年 2月……………地鎮祭斎行(現在地)
- 昭和19年11月28日……………山梨縣護國神社として内務大臣より指定
神饌幣帛供進神社として県知事より指定
- 昭和19年11月29日……………鎮座奉祝大祭斎行(創建)
- 昭和21年10月30日……………山梨宮と改称
- 昭和27年11月12日……………再び山梨縣護國神社と改称
- 昭和29年10月……………撰社山梨宮建立
- 昭和39年11月28日……………御本殿外修築完成
- 昭和44年9月1日……………舞殿を新築
- 昭和48年10月13日……………神札領布所造営
- 昭和49年 2月……………史実資料館完成
- 昭和51年 4月……………納骨堂旧陸軍墓地内より移転新築
- 昭和53年……………大鳥居、玉垣完成
- 昭和56年……………御本殿瑞垣造営
- 昭和60年10月……………第2鳥居改築
- 平成7年4月……………舞殿改築
- 平成8年7月1日……………神社本庁別表神社に加列
- 平成10年4月29日……………社務所新築

御祭神25037柱を奉斎

- 西南の役(明治10年)……………50柱
- 日清戦争(明治27・28年)……………568柱
- 日露戦争(明治37・38年)……………449柱
- 台湾討伐(大正3年)……………55柱
- 満州事変 }……………73柱
- 上海事変 }
- 支那満州事変……………1,784柱
- 大東亜戦争……………22,058柱
(平成11年4月5日現在)

幣 饌 料 御 下 賜	天皇陛下	昭和35年8月26日	幣帛科御奉納(合祀概了奉告臨時大祭執行)
	幣帛科	昭和40年10月5日	幣帛科御奉納(終戦20周年臨時大祭執行)
	料	昭和47年10月14日	常陸宮両殿下御参拝
	御	昭和50年10月5日	幣帛科御奉納(終戦30周年臨時大祭執行)
	下	昭和60年10月5日	幣帛科御奉納(終戦40周年臨時大祭執行)
	賜	昭和61年10月11日	幣饌科御奉納(甲斐路国体御行啓の砌)
		平成7年10月5日	幣帛科御奉納(終戦50周年臨時大祭執行)
		平成8年4月23日	幣饌科御奉納(県内事情視察御行啓の砌)

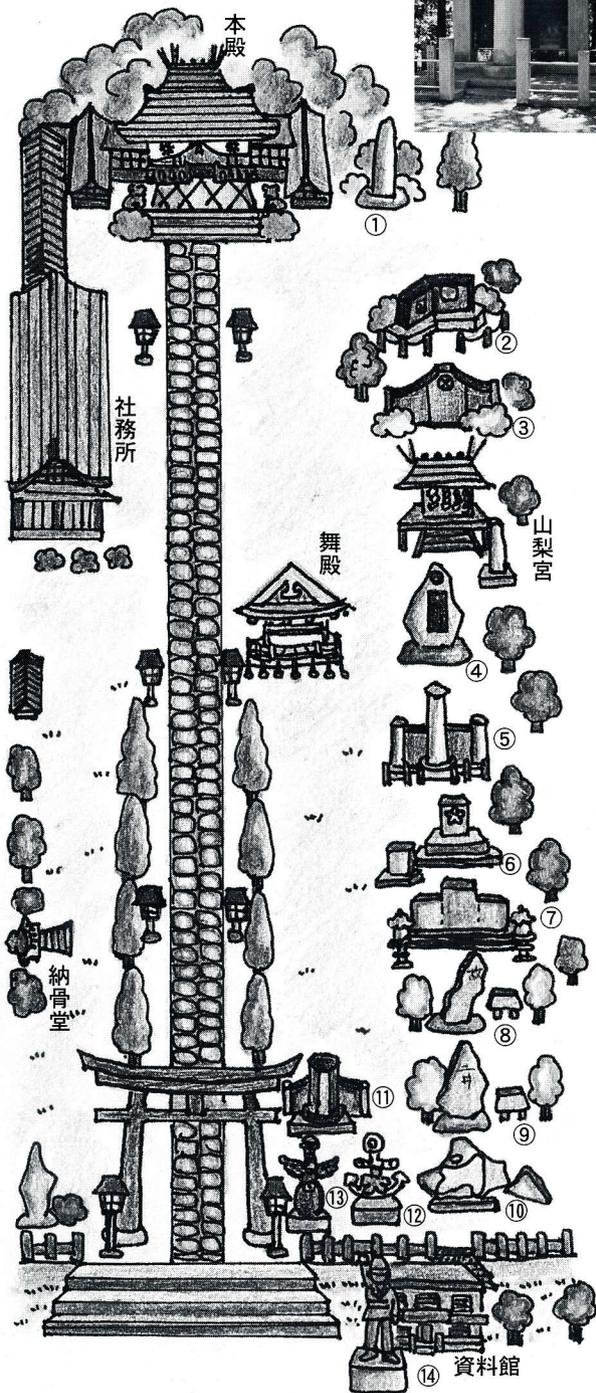
慰靈碑



撰社山梨宮 由緒

昭和21年10月31日、神社本庁通達に基づき、山梨縣護國神社を山梨宮と改称し、従来の戦没英霊に合わせて特に顕著な功績を残し、社会公共の為に貢献した学者、高德者、間拓者、義民、孝子、節婦等あらゆる階級、職域を通して一世の亀鑑と仰がれ、師表と敬された方々を祭神に合祀した。その後昭和27年、再び社名を山梨縣護國神社と改称し、昭和29年、社殿を建立し戦歿英霊以外の八柱を奉祀してあります。

学者	加賀見光章命
学者	志村天目命
御嶽新道開発者	長田円右衛門命
徳島環開鑿者	徳島兵左衛門命
郡内の義民	関戸左近命
太樹事件犠牲者	金子重右衛門命
太樹事件犠牲者	三沢重右衛門命
節婦	くり女



- ① 歩兵第四十九連隊慰靈碑
- ② 日本赤十字社従軍看護婦慰靈碑
- ③ 傷痍軍人の碑
- ④ 予科練慰靈碑
- ⑤ 衣三〇四部隊慰靈碑
- ⑥ 満蒙開拓青少年義勇隊慰靈碑
- ⑦ 満蒙開拓団慰靈碑
- ⑧ 故満鉄李家義勇隊慰靈碑
- ⑨ 満鉄一井義勇隊慰靈碑
- ⑩ 硫黄島戦歿者慰靈碑
- ⑪ 軍恩連盟の碑
- ⑫ 海軍戦歿者慰靈碑
- ⑬ 歩兵第四十九連隊鶴三〇六三部隊鎮魂碑
- ⑭ 父の像

納骨堂

本県出身戦歿者のご遺骨を奉安する納骨堂は、昭和21年岩窪町旧陸軍墓地内に旧陸軍の手によって建設が決まりました。しかし、完成をみないままに終戦となり、特殊物件として大蔵省に移されました。昭和27年講和条約の発行とともに、県民の間に英霊鎮護の気運が高まり、昭和36年に至ってようやく甲府市に払い下げられました。納骨堂の祭祀、維持管理は県をはじめ関係者の努力によってなされてきましたが、建物は次第に老朽化してまいりました。終戦30周年を期にその記念事業として納骨堂の移転新築が決定され、現在地に昭和50年11月着工し、翌年4月完成しました。

この納骨堂には、わが国の発展と平和の礎となられた元歩兵第49連隊、東部第63部隊をはじめとする本県出身の戦歿者の分骨5千三百26柱、霊壺2万4千9百15柱を謹んで奉安してあります。

慰靈祭 4月5日・10月5日
敷地面積…357平方メートル
建物面積…90平方メートル

